群馬県議会　リベラル群馬

後藤かつみ

県議会だより

vol.10

発　行　リベラル群馬　後藤かつみ事務所
住　所　高崎市八幡町800−24
TEL&FAX　027−343−1393
e-mail　ccrgoto@yahoo.co.jp
http://www.ccrgoto.com/

本会議一般質問で知事と討論

現場の視点から「群馬型」の経済対策を提言

「100年に1度の経済危機」とは？

大澤知事も多用する「100年に1度の経済危機」という言葉。しかし、時として「バラマキ」の正当化に用いられています。

後藤は「従来の成長戦略が限界を来しているからこそ〝100年に1度〟なのであって、従来の公共事業中心でない新たな経済対策が必要なのではないか」と指摘。

大澤知事も「新たな産業を育成しないと群馬県の将来も難しいことになる」と政策の転換を示唆しました。

「群馬型ニューディール」への転換を

求められるのは「群馬型」の公共投資の在り方。後藤は、「自然エネルギーや農林業に適した環境を活かし、〝環境〟〝農林業〟を重点とした公共投資に転換すべき」と提言。その上で、知事が腐心する企業誘致策に対しても、「例えば〝環境産業に進出したい企業は群馬に来い〟とPRできる位の施策の裏付けをすれば自ずと群馬の〝ブランドイメージ〟に繋がる」と指摘しました。

環境政策としての公共投資を

具体的な施策として、環境については、全国有数の「日照県」である環境面、県内企業が家庭用燃料電池、電気自動車に進出している産業面の特徴を活かし、太陽光発電を中心とした新エネルギー分野への投資を提言。

また、今年度景気対策として行われている家庭用太陽光パネルへの補助制度に対し、「景気対策ではなく〝環境政策〟として継続すべき」と指摘。県も事業継続のための予算確保に向けた努力を約束しました。

〈環境の現場〉
約600戸の家庭用ソーラーパネルが建ち並ぶ、パルタウン城西の杜（太田市）を先進地視察

現場の視点から農林業への投資を提言

農林業については、後藤自身、先進的な農林業に取り組む事業者を視察するだけでなく、販路開拓などの活動を一緒になって取り組んでいます。

現場での交流を通じた視点から、先進的な取り組みを行う「人材」にこそ投資すべきであり、そのためには農林業を「持続可能な産業」にすべきと提言。

農業においては「良いもの」を「必要とする人」へと繋ぐ販路の確立を、林業においては細分化されている山林を効率的に集約する人材の育成を強く訴えました。

〈林業の現場〉
高性能林業機械を駆使し、競争力の高い林業を目指す「㈱桐生林業」を視察。桐生社長から未来の林業に対する熱い思いを聞く

〈農業の現場〉
有機農業生産者グループ「くらぶち草の会」のIターン者の受け入れ、消費者交流の取り組みを視察

産経土木常任委員会

「住民本位」の公共事業の在り方を提言

烏川の治水対策を引き続き提言

(1)伐木、堆積土除去工事の予算化へ前進

高崎市が全戸配布した「洪水ハザードマップ」において甚大な洪水被害が想定されている上並榎地区について、5月議会に引き続きハード面での治水対策の強化について指摘しました。

県も住民の強い要望に応える形で、雑木の伐採と堆積土の除去により、水流の阻害要因を除去する工事の予算化に言及しました。

(2)「安心感」に繋がる堤防整備を

上並榎地区の上流に位置する下小塙地区では、堤防と住宅団地が道を挟んで近接しているため、先進的な工法による堤防整備（写真）を行っています。しかし、依然として未整備区間が残されているため、住民の不安は解消されていません。

後藤は、治水対策に加え、住民の「安心感」にも繋がる事業をもっと重視すべきと提言し、予算確保を要請しました。

先進的な工法（ドレーン工法）による堤防強化について、地域要望箇所を確認する後藤かつみ（下小塙地区・新井団地）

雇用問題「対策」から「政策」への転換を提言

(1)民間のアイデアを活かした手法を提案

今年度国の景気対策予算で40億円の失業対策事業を行っていますが、予算消化が優先され「失業者」の立場に必ずしもなっていない現状が指摘されています。

後藤は、栃木県において民間企業等のアイデアを取り入れ、失業対策終了後も継続して企業等で雇用される工夫をしている事例を紹介し、改善を要望しました。

(2)失業者を「弱者」としない雇用政策を提言

失業者を「弱者」と捉えず、カウンセリング・職業訓練を通じて、より働きがいのある分野に再度「羽ばたかせる」、EU型の雇用政策への転換が必要であると訴えました。

そのために、群馬が持つ「ジョブカフェ群馬」や「産業技術専門校」などのカウンセリング・職業訓練機関という行政資源に光を当てるべきであると提言しました。

リベラル群馬として栃木県の雇用対策の現状を視察政策担当者として熱心に質問をする後藤かつみ

地域活動ミニ報告（八幡地区）

後藤かつみは、地域の安心安全の向上のために日々汗を流しています。

皆様の地域の「声」をどんどんお寄せ下さい。

県道10号（前橋安中富岡線）の町屋橋の右岸（安中寄り）側を拡幅し、左岸側と同様に右折車線を増設する工事の年度内開始が決定。慢性的な渋滞の緩和が期待される。

国道406号の「下大島町」交差点西側の急激に道幅が狭くなり事故が多発している箇所について、車道拡幅工事の年度内開始が決定。事故減少が期待される。